

堀川同窓会報

HORIKAWA ALUMNI ASSOCIATION JOURNAL

第5号

HORIKAWA
103th

第103回堀川同窓会ウェルカムパーティー



同窓会会長
市田ひろみ
(高第3回卒)

「あの 堀川高校 卒業ですか？」
「さすがですねー」
「??？」
私達の学んだ昭和二十年代って
こんどんとした戦後のまことに時代で、高校生活の風景といえば、
せまい校庭に生徒達が何となくうごめいていたイメージだ。その母校が現在、日本中に高レベルの教育と進学率のすごさで、日本を代表する高校となった。「あの堀川高校卒業ですか？」って誇らしい気持ちにさせてもらえるのは、ありがたいことだ。

勿論、その間生徒の努力も勿論だが、先生方の努力も並大抵ではなかった。生徒の自立能力を引き出すということに重点を置き、一人一人注意深く見守りつつ、生徒の能力を引き出して行っており立派に生徒のパートナーとなっている。一流大学の進学率ばかり話題に出るが、実際の授業はきわめて開放的で授業風景はいつでも見学出来るし、海外研修旅行を通して人間関係、未知の文化への探求など、人間として智力、体力、創造力の開発をすすめている。

堀川高女からスタートした堀川高校も百二年の歴史をかぞえ同窓会員も3万人を超す。卒業生は各界で活躍し、堀川高校をめざす中学生も多い。

私はいつも卒業式に列席するが静寂の中で整然と進行する式典に感動する。

卒業式には親や家族が列席するが、きっとこの高校を選んだことをよろこんでくれることだろう。

規律や秩序というものが、団体生活の基本であることも生徒達は自然な形で知ることだろう。

堀川同窓会としても学校と協力してサポートしてゆきたいと思っている。



校長
荒瀬 克己

平素は母校の発展にご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。さて、高等学校第3代校長・米田貞一郎先生が、平成23年12月に満102歳のお誕生日をお迎えになりました。皆様と共に心からお祝い申し上げたいと存じます。

平成22年12月に101歳をお祝いして、PTA歴代役員と歴代校長が、正面玄関前に石碑を設置いたしました。お祝いに何かをお贈りしようと相談する中で、むしろ逆に米田先生からお元気やお志を分けていただいてはどうかということになり、

先生が深く愛してくださる堀川と生徒たちへの贈り物として、ご揮毫いただいた次第です。碑には、先生の「絆」の一文字が刻まれています。全校生徒にお話しいただいた際にも、高校時代の絆を大切にしなさいと、ご自身のご経験から滋味深く優しくお説きくださいました。

平成23年3月11日の東日本大震災後、「絆」の大切さが全国的に語られています。母校にお越しの節は、先生のお手になる、凛とした「絆」をご覧いただければ幸いです。

先般、昭和35年ご卒業の二科会理事でいらっしゃる宮村長（みやむらまさる）氏から油絵の大作をご寄贈いただくことになりました。宮村氏は、平成22年に内閣総理大臣賞を受賞されておられます。頂戴するのは「家族」と題された作品で、僭越ながら、家族それぞれへの深い愛情と、一人ひとりを守っていくとする意思が、優しく、また力強く表現されているようにお見受けしました。宮村氏は、インターハイ優勝など数多くの栄光の歴史をもつボート部のOBでもいらっしゃいます。島根県の松江高校（現・松江北高校）との対抗戦のお話などをお聞かせくださいました。

多くの方々に見守られる在校生たちは幸せです。同窓会諸姉諸兄のますますのご健勝をお祈りするとともに、今後とも一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。



103回 堀川同窓会

堀川同窓会が「毎年4月の第3土曜日・国際ホテル。」で開催されることが少しずつ定着はじめたのでしょうか？それとも、堀川マンドリンクラブのおかげでしょうか？今年は多くの同窓生に集まって頂きました。年代、性別を越え同窓生と言う繋がりで、あらゆる分野の交流ができる場として発展して行くことを切に望んでいます。

堀川同窓会

2011・4・16



10期生 小林 薫

京都大学に入学し、半年以上が経過しました。授業を聞くだけでは、理解しきれないことばかりなので自分で参考文献を調べることが多くなりました。幸いに大学の図書館は充実しているので大いに活用しています。

また、新たにウインドサーフィン部に入部しました。これはヨットとサーフィンの中間をとったようなスポーツで、ボードについているセイルで風を受けて走ります。日々先輩に教えを受けながら練習に取り組んでいます。割とお金のかかるスポーツでもあり、そのためアルバイトも頑張っています。お金を稼ぐことの大変さも知り、良い社会勉強になっています。まだ大学生活は始まったばかりですが、日々は充実していて楽しいです。



10期生 藤原 大地

高校を卒業して早くも10か月以上が経とうとしていますが、私は現在、部活、勉強、アルバイトとすべてにおいて一生懸命頑張り、充実した大学生活を送っています。大学卒業するまでにはたくさんの資格をとつて将来につなげていきたいと考えています。

103回 堀川賞受賞者

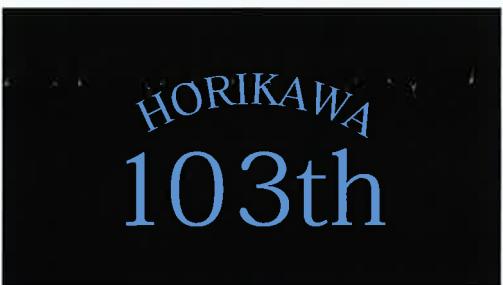
一番若い同窓生三人からの受賞挨拶は、清々しく、凛とし、輝く未来に向かう姿勢が感動的でした。来年の同窓会には、多くの友人を引き連れ必ず遊びに来て下さいとお願いしました。来てくれると嬉しいのですが…大学生は忙しいから…いかがでしょうか？それはさておき、いつの日かこの堀川同窓会を引き継いで行ってくれますように願っています。

三人から近況のメッセージが届きました。



10期生 小塩 慶

私は、歴史を専攻しようと考
えています。そのための準備と
して、現在は平安時代の貴族の
日記の読解を行っています。ま
たサークルでは茶道部に入り、
お寺での稽古や合宿、茶会など
と貴重な経験をさせていただきました。



今年初めて103回同窓会にご参
加下さった高14回（昭37）卒
の松田捷彦氏から学年同窓会開
催の相談を受けました。来年は
堀川高等学校を卒業して50年
となる記念すべき年と言う事で
した。

それではと、高14回卒の皆様
には是非104回同窓会にご出席い
ただき、私達にお祝いをさせて
下さいと申し入れました。

その結果104回同窓会のあと、
引き続き夕方から学年同窓会を
国際ホテルで開催されることに
なりました。

皆様も是非4月の第3土曜日は
堀川同窓会に参加し、その後各
学年同窓会を夕方から開催する
計画を立ててみて下さい。





Horion.ob.1th
**AUTUMN
CONCERT**
2011. 10. 23

「音楽のつながり」

京都市立京都堀川音楽高等学校 校長 大江加津雄

二条城の向いに移転して2年近くが経ちました。のどかな自然に囲まれた環境から都会の真っただ中へと大きな変化でしたが、地元の皆様から温かいご支援をいただき生徒たちは充実した日々を過ごしています。本校同窓会も移転を機に新たな取組みを進めておられます。

昨年10月23日（日）堀音同窓会主催による「第1回オータムコンサート」が開催されました。その後、総会および懇親会も行われ、同窓生の集う楽しい一日となりました。

まず、「第1回オータムコンサート」では、第一線で活躍されている本校卒業生が多数出演されました。第1部ではピアノ、フルート、声楽の3人のソリストによる素晴らしい演奏が繰り広げられました。第2部では堀音同窓生で編成された室内オーケストラによる「動物の謝肉祭」が演奏され、音楽の楽しさや感動が、会場を埋め尽くした観客の皆様に広がりました。改めて、本校卒業生が発信する「人々に感動を与える音楽力」に感激しました。

コンサート終了後、同じ会場で「堀音同窓会総会」が開催されました。限られた時間ではありましたが、事業報告や予算審議など滞りなく議事が進行いたしました。

総会終了後、会場を移し、コンサート出演者や総会参加者、同窓会役員の皆様が集い、和気あいあいと懇親会が行われました。会場のあちこちで学生時代の懐かしい思い出話や音楽談義に花が咲いていました。いつまでも楽しそうにお話をされている姿に同窓会の意義をしみじみと感じていました。もともと堀川高等学校音楽課程として誕生し、その後京都市立音楽高等学校として独立、昨年京都堀川音楽高等学校となりましたが、今も堀川高等学校とは深い絆で結ばれています。本校の使命として、今後も音楽文化の発信拠点として情報発信を行い、多くの音楽ファンが気軽に憩える場となり、いつでも音楽に触れられる空間にしていきたいと思っています。お時間がございましたら、是非本校ホールに足をお運びください。楽しいコンサートが行われています。なお、演奏会情報は本校ホームページをご覧ください。

本校ホームページ (<http://cms.edu.city.kyoto.jp/weblog/index.php?id=300506>) では、「第1回オータムコンサート」の様子を紹介しています。

- ・堀音1期生、2期生によるコンサート 平成24年3月24日(土) 午後2時開演予定。
- ・第2回オータムコンサートは、平成24年10月21日(日) 午後2時開演予定です。



本33回卒 鞍岡道子



NHKスペシャル 「玉 碎」 —隠された真実—

(平成22年8月12日放映)

アツ島での“玉碎”、
そして“一億玉碎”へと至るまで

昭和18年5月、アリューシャン列島のアツ島で日本軍守備隊が“全滅”した。これが、太平洋戦争時の日本における“玉碎”的始まりだとされている。

その後、各地で“玉碎”が頻発。やがて国は「一億玉碎」を掲げ、国民に対しても死の覚悟を求めるようになっていく。はたして、世界史上例のない、国を挙げての“玉碎”は、どのように構想されたのか。新資料や証言記録をもとに、戦争中の日本が“玉碎”という概念を国民に浸透させていく過程を明らかにする。(NHKテレビ番組案内から)

青春をすごした堀川、しかし半分は戦争、勤労奉仕、でも吾々5年1組飛鳥井先生のもと今も思い出の学生時代忘れません。つたない文章ですが、私からあのいまわしい戦争は一生切りはなすことはできません。

先日、横田さんの写真展ですごい校舎を見せて頂きました。もう私も京都に行くこともできません。堀川の青く光ったもよおし、友禅流し、テレビでなつかしく見せて頂きました。

同封のものアツ島の英靈に捧げる意味で書きました。
鞍岡拝

間に合わなかった弾丸（たま）

その時、昭和18年私達堀川高女33回生は祝園（ホウゾノ・現在の精華町）に降り立った。辺りは背丈位の草がしげり、それを分け乍ら先生の先導で目的地に向かった。何をするのか分からぬまま銃剣を持った兵隊さんの立つ門をくぐった。藁葺きの粗末な小屋が今日から私達の家だった。荷物を置く間もなく数名ずつに分けられ、それぞれ仕事場に向かった。私達数名はプラットホームだった。

何をするのか？汽車は見えなかったが線路が向こうの方まで続いていた。私達はいつもの様に冗談口をたたいていた。でも、整列の掛け声ではっとわれにかえった。背の高さでこの職場に？ホームには新しい木箱の山々が・・係の方はまだ若く、10人ほどはこそこそ言い出した。その頃は同年の中学生にも会ったことなく珍しかった。各々にとんちと釘を手に持たされ、木箱の前に立った。はっとした。札にはアツ島と書かれていた。私達の重大な任務がやつと分かった。

最初、口の中の小さな釘を思わず飲み込みそうになった。慣れてくると磁石になっているとんかちの頭にすでに付いた釘を素早く木肌に打ちつける。だんだん早くなって一日中皆なでアツ島に届けと作業した。

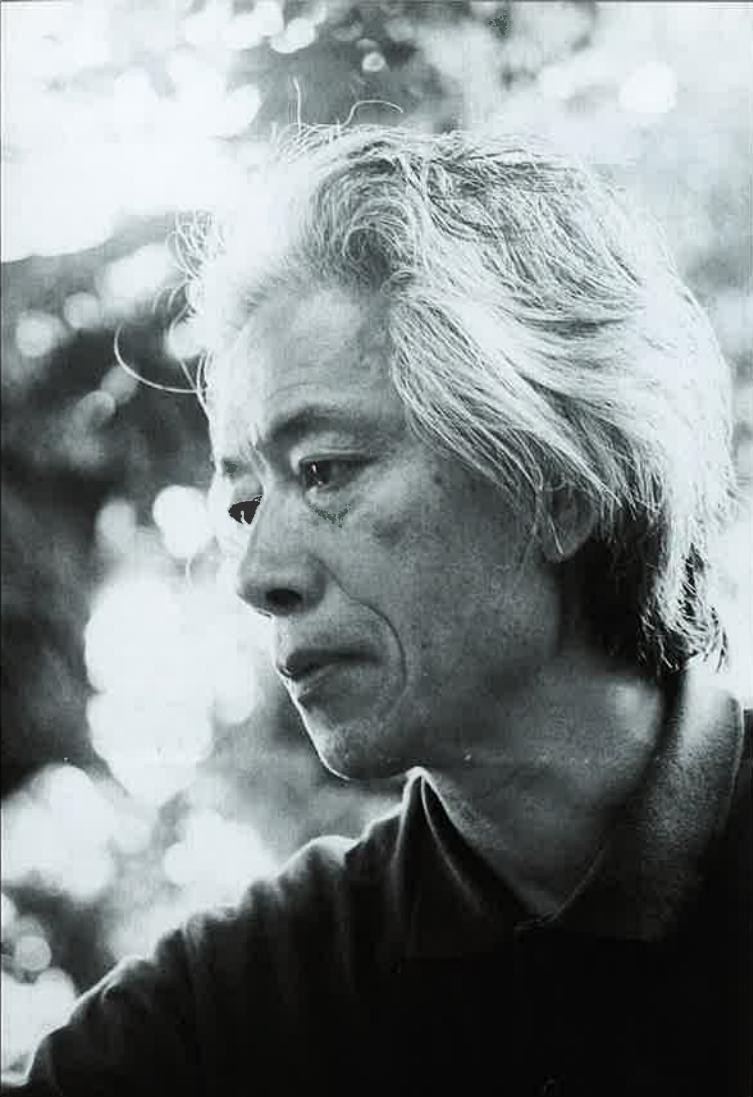
後日、平成二十二年八月十二日（木）NHKスペシャル玉碎かくされた真実で弾丸が届かなかったことを知りました。兵士達は手には銃も持たず両手を万歳の形でアメリカに突っ込んでいった。（この様子をアメリカ側が写真を撮っていたと思う）大本営は全滅ではなく玉碎を決めたのです。余りにもむごいと思います。

弾丸が届かなかったこと戦後65年経って知り、改めて兵士達のご冥福を祈る許りです。世界平和を願って筆を置きます。合掌

八月二十三日記

卒業式にうたつた歌

学びの道には
果てこそなれど
すぎし月日にかぎりぞありける
我等ははなれん
学びの庭より
今こそわかれん
師の君我が友
今日より世に出で
なすべきつとめを
おこたらずいそしまん
さらばよ師の君
まさきくおわせよ
さらばよ我が友
つつがなくあれよお
いざあさらばよ
さらばさらばよ
わかれなんあ々



遠藤剛熙 ENDO GOHKI

高5回卒



真摯に自然と向き合い、真理に挑み、ひたすら描き続ける魂の画家遠藤剛熙氏が自ら館長を勤める美術館が開館して今秋10周年を迎えた。今年で76歳を迎え、ますますそのエネルギーは衰えることを知らない。

堀川高校の美術部に入部したその日から油絵を描き続け今に至る。

この間60年描くことに専念する一方後進一万人への画塾教育に力を注いで来た。その結果、一枚の絵も手放す事無く2,000枚の絵画が、この美術館に収蔵されている。

過去、多くの画家達の貴重な絵画が行方知れずとなり著名な画家達の絵画ですら一力所でその絵画の遍歴、変遷を一同に鑑賞することは不可能に近い。しかし、この美術館には60年間の全てが存在する。それは遠藤氏が恵まれていたから、という一言で済ませられるものではない。おそらく遠藤氏は絵を描くことは、生活の糧を生み出すものでなく、自然の真理を求める手段であり、哲学する結果であったからだろう。

堀川高校生の時から、その絵から放たれる力、周りを圧倒する勢いは京都だけでなく日本全国の絵画コンクールで入賞、特選を獲得し続けていった。

堀川を卒業後、東京の武蔵野美術大学へと進む。約10年後、より自然の真理と向き合うため自分を生んだ地、京都に戻り今に至る。

その間、小林秀雄氏、加藤周一氏、栗津則雄氏から高い評価を得、またフランスから招聘され四度にわたるパリでの個展が開催された。今回の10周年記念式典にも、栗津則雄氏をはじめ美術界の重鎮も多数お祝いに参集された。またその会場には多くの宗教本山の管長、法主も参集されていた。その理由を知らない者にとっては、これは宗教サミットかと驚く光景だった。これは遠藤氏の哲学の根幹にある「芸術的真理と宗教的真理は一つである。」という考えに賛同された京都をはじめとする日本宗教界の方々がお祝いに駆けつけられたからだ。

小林秀雄氏から教えを乞うた時の言葉「常にデッサンを」を守り続け、今なお現場で制作し、常に基本デッサンを重ね描き続けているという。そして多くの先輩方から頂いた、心に響く言葉を大切に生きてこられた遠藤氏にとって、この10周年にどうしても記念展覧会を観て頂きたく、強く再会を望まれた方がおられた。わが堀川高等学校の元校長、米田貞一郎先生である。103歳の先生は杖こそ持つて現れたものの、かくしゃくとされ60年ぶりの再会は、時を越え深い感動をもってこの日実現した。

「いつまでも青年の活力を、そして絶えず人間たる為の良心の戦いを」18歳の遠藤氏が堀川を卒業する時、米田校長から頂いた言葉であり、今なお自分の中心に置いている言葉だと言う。

米田貞一郎校長先生を囲み、平井義久堀川同窓会副会長をはじめ40人以上の堀川OBが集まった。プチ同窓会はあらゆる学年、性別にかかわらず一気に堀川高校の放課後、校庭へと変わっていた。

近年の白黒の作品が話題となり、遠藤氏の展覧会がニューヨークで開催される話が今まさに進んでいる。また、多くの方々から絵画購入の声が高まっており、それに答える遠藤剛熙後援会によって一年に数回アートフェアが企画される予定である。絵画販売は2,000点の一部ではあるがニューヨークの展覧会より一足早く、美術館内のギャラリーで開催される予定である。(開催日は美術館にご確認ください。)

遠藤剛熙美術館

京都市下京区猪熊通高辻下ル TEL : 075-822-7001 FAX : 075-801-0626

堀川同窓会員の皆様へ

10周年を記念し、堀川同窓生の皆様には、電話にて堀川同窓生である旨をお伝えいただき
ご予約いただければ無料にてご来館いただけます。多数のご来館をお待ち致しています。



岩手県・宮古市での鎮魂と復興の祇園囃子

高21卒 堀川同窓会副会長 石田哲雄



11月5日の午前5時45分京都商店連盟会長・京都府商店街振興組合連合会理事長、早瀬善男様を含めて14名が四条大宮に集合、宮古に向かって出発。

リムジンバス⇒JAL⇒岩手県北チャーターバス⇒正午、宮古市到着は予定通り。宮古駅前の式典では、宮古、山本市長に門川京都市長からの親書を手渡しました。

式典終了後、パレードされる全国新選組ゆかりの地の方々とは別れ、囃子会場の鍬ヶ崎小学校に向かいました。小学校は近日まで避難場所に使われており、鍬ヶ崎地区も壊滅的被害に会われた地区で、近くには、仮設住宅も点在しており、「言葉が出ません」でした。

午後2時50分から演奏を始めましたが、パレードの到着が遅れたためか、小学校の体育館の入りは少なかったです。それでも100名以上の被災者の方々に集まって戴けたので、函谷鉢保存会からお預かりした、「粽」「手ぬぐい」「数珠」…などをお配りしました。その後会場は次々と全国新選組のパフォーマンスがくりひろげられましたが、我々は、学校、傍の「魚まさ」さんと言う、一軒だけ再開されたお店の横の空き地に2回目の鎮魂の囃子を行なう為、移動しました。

店の周りは「何も無く」囃子を始めますと、どこからともなく、お年寄りや、小さな子供を自転車に載せた被災者の方々に来て戴き、鎮魂の囃子をじっくり聞いて戴きました。その場でも、残った数珠などをお配りしていた処、おばあさまが「本当によかった。京都に行って本物の祇園祭りが見たい」とも言って戴きました。子供たちも口ぐちに「数珠ちょうどい」と言っていました。この子供たちが、明日の岩手・宮古を復興してくれるメンバーですから、心を込めて、お渡しました。

更に、小学校から交流会場に新選組メンバーが異動される午後6時ごろ、辺りは真っ暗になりました中、「夢あかり」と言うロウソクパフォーマンスのBGMを務める為、再移動を行い、学校傍の道路でこの日三回めの囃子を行いました。

この時も、どこからともなく、老人、子供が集まってこられ、魚まささんと同じような状況になりました。暫らくして、我々も交流会の浄土ヶ浜パークホテルに移動、参加し、この時は、達増岩手県知事の代理の宮館副知事に早瀬会長から京都府、山田啓二知事の親書を手渡しました。

和やかな新選組仲間との交流会もアッと言う間に過ぎ、9時過ぎお開きの後、宿泊先のセントラルホテル熊安に向かいました。

6日は早朝6時に集合して、世界一の防波堤の有った、田老地区の視察から始まりました。行ってみてびっくりしたのは、15メートルの堤防のデカサです。それを越えて津波が来たのですから…ボランティアガイドさんの話では、ここで、800人以上の方々が波にのまれたそ

です。

安心しきっていた人々は堤防の上から波が来るのを見ていたそうです。老人たちは、堤防の内側に家が有った(過去形です)安心感から、逃げなかったそうです。そこにこの堤防を越える津波が押し寄せた。結果は…。教訓ですが、昔は、堤防が無かったから、家から海が見えたので、皆一目散に逃げる事が出来たのですが、今は全く見えません。堤防に頼って良いのか、悪いのか…

一番のショックは、田老地区に住んでいた子供たちが、



もうここには住みたくないと言っている事です。復興の担い手が居ない事こそが、最大の問題です。この事に我々がどのような事をして差し上げられるのか?今後の課題です。雨が降ってきて、その後、我々はこの日1回目の演奏場所となる「魚市場」へ。日曜日でたくさんの、さんま漁船が係留されている市場の屋根の下で海に向かって鎮魂の演奏を始めました。

この海は3・11以外、142年前、旧幕府軍(我々は敢えて、東軍と呼ぶ)の「回天」と言う洋式軍艦と「甲鉄」と言う新政府軍(西軍)の洋式軍艦が海戦をした場所でもあり、東軍には新選組の土方歳三が、西軍には後の日露戦争連合艦隊司令長官、東郷平八郎が、乗艦、戦ったそうです。結果は、東軍の惨敗で、首を切られた多くの東軍兵士の遺体が鋸ヶ崎に流れ着いたのを、当時旧幕府びいきの白河藩の宮古の方々は、東軍兵士をひそかに弔ったそうです。

そのような歴史ある海に向かって鎮魂のお囃子を心を込めて行いました。

聞いていたのは、うみねこ、漁船、海…

昼過ぎ、最後の演奏をする、宮古駅前の「末広町商店街」

に移動、スポーツ用品店さんの入り口をお借りして、演奏を始めました。

この商店さんにも1メートルの海水が押し寄せたそうで、ちょうど、新学期に備えて仕入れしてあった多くの、ジャージや、学生服をやられたそうです。何と言ってよいのやら。言葉が見つかりませんでした。ここでは、雨の中、多くの市民の方々に集まって戴きました。宮古最後の囃子なので、いっそう力が入った演奏になりました。お礼の言葉と三本締めを行い、無事ミッションを終えました。その後は、売上協力のため、14名が末広町商店街で買い物に励みました。私は、ウニとアワビを購入し自宅で堪能させて頂きました。

日本通運美術部の囃子の返送手続きの後、行きとは逆のコースで無事、6日午後9時過ぎ、JR京都駅に帰着し、解散しました。

その後ですが、12月3日には、宮古高校の修学旅行が京都との事で、宿泊旅館「杉長」さんで250名の生徒さんの前で再び、祇園囃子をさせて頂きました。達増知事、山本市長さんからの返礼の親書を山田知事、門川市長にお届けしました。

HORIKAWA
104th

Florez Duo

Jesus Florez

Fredy Florez



祝舞

藤
蔭
静
枝

(高
21
回卒)

104th HORIKAWA ALUMNI ASSOCIATION

104回 堀川同窓会開催 参加募集!!

日時：2012年4月21日（第3土曜日）午後2時～

場所：京都国際ホテル

内容：1. 堀川賞授与式

2. 祝舞 藤蔭静枝（高21回卒）

高14回卒の皆様へ

3. 小宴

Florez Duo フローレス・デュオ とともに・・・。

会費：2,000円（一般同窓会員）

1,000円（高14回・昭和37年卒の皆様のみ）

無料（平成23年度卒業生はご招待）

申込：別紙FAX用紙又は電話にて4月1日までにお申し込みください。

同窓会は毎年4月の第3土曜日に国際ホテルで開催いたします。当同窓会終了後、各学年の同窓会を開催されますよう終了時間を夕方に定めております。どうぞ、各学年の同級生をお誘いいただきご出席くださいますようお願いいたします。

104回の同窓会は、南米のラテン・ホルクローレのライブに乗り、大いに楽しい一時をお過ごしください。ホルクローレと言えば、「コンドルは飛んで行く」が私達にはおなじみですが、あの透明感溢れる音楽に加え、彼らの演奏はとてもリズミカルで思わず踊りたくなります。その上彼らの流暢な日本語は、心の底から楽しい時間を作ってくれることでしょう。

Florez Duo

フローレス・デュオ

南米ペルー・クスコ出身の兄弟。フレディ・フローレスとヘスス・フローレス

1991年から日本で音楽活動を始める。2002年ラテン・アコースティックデュオを結成。南米特有のリズム感と兄弟固有のハーモニーは見事である。ラテンやオリジナル曲の演奏を持って全国各地で活躍中。本国ペルーにおいては、毎年クスコの障害児施設を支援するチャリティー活動を行っている。オリジナルCDアルバム3枚リリース。2010年：CDアルバム「Canto歌」発売。

高14回（昭和37年）卒業生の皆様へ

堀川高等学校卒業50年、誠におめでとうございます。50年をお祝いするために、私達は藤蔭静枝の祝舞をプレゼントいたします。そして宴もたけなわになり、昼間のお酒が少しまわった頃に、ラテン・ホルクローレをお楽しみください。そして、夕方からの学年同窓会の部屋へと宴を進め・・・この日一日はあの頃に戻って大いにハイスクール青春を謳歌して下さい。皆様だけは1,000円でご参加いただけます。皆様のお申し込みを心からお待ちいたしております。

2011年度 卒業生の皆さんへ

2011年度 第四回「堀川賞」募集

今年度エッセイタイトル

「飛翔」 —世界の中の日本—

対象者：2012年3月 堀川高等学校卒業生
締め切り：2012年3月22日

賞金：各10万円 優秀作品3部

堀川賞：100周年を記念して設立。毎年その年度の卒業生を対象にエッセイを募集。3名の受賞者は毎年4月第3土曜日に開催される同窓会にて会長より「堀川賞」及び副賞として金10万円を授与される。受賞エッセイは同窓会ホームページに掲載。今年度のタイトルは、昨年同様「飛翔」副題として「世界の中の日本」とする。

救う会京都より



今年も同窓会報の原稿依頼を頂いた。有り難い思いと、一向に進まぬ問題解決に我々の無力と一年の早さを嘆く。

日本の救う会の中、京都だけが同窓生を中心に活動をしている。横田早紀江さんが76歳、私達救う会のメンバーもほとんどが76歳である。年々活動に支障が出始めている。だが、横田早紀江さんがこの京都に帰って来た時、あのほっとする表情をメンバーの誰もが知っている。彼女を少しでも支えられるなら、そしてこの事実を風化させない為に微力ながら活動を続けている。どうか、同窓会員の皆様、救う会京都へのご協力（活動支援金のご協力願い：下垣まで）ご参加をお願いいたします。 救う会京都会長 中村喜代治

救う会事務局：下垣：TEL：075-241-1663・FAX：075-241-1677

事務局より

105th HORIKAWA ALUMNI ASSOCIATION

2013年、同窓会は105回を迎えます。これまで、役員会と事務局の企画をもって運営して参りましたが、記念すべき次回の企画は皆様のご希望を出来るだけ反映いたしました、企画案を募集いたします。こんな演出をして欲しい。あるいはこんな方のコンサートをして欲しい。堀川高校卒業で、こんな方がいらっしゃるなど多数お寄せください。

住所：〒604-8254 京都市中京区東堀川通錦小路上がる
FAX：075-211-1526 堀川同窓会宛
<http://www.horikawa-dosokai.jp/>

編集後記

今回からページ数が4ページ増えての同窓会報となりました。同窓会への寄稿の数が増えた訳ではないのですが、年々学年を飛び越え同窓会員の交流が活発になって来た結果です。告知する内容も、深みを増して来たのではないかと感じています。役員会においても3万人もの皆様に広報出来る内容を少しでもタイムリーに伝えられる同窓会報になれないかと話し合っています。どんな内容でも結構ですからあなたの情報や、告知されたい内容を3万人の同窓会員というあなたの仲間に広報しませんか？寄稿を心からお待ちしています。